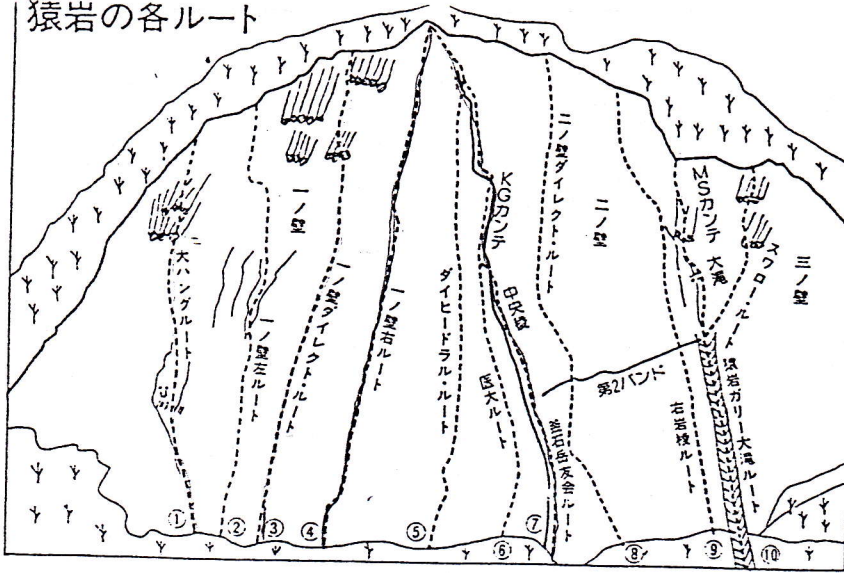


猿岩の各ルート



ここを出るとフニイスに三本のピンがある。出口が少しいやらしく、ザイルが鋭角に折れるので要注意。
フニイスから左の凹角に移り、草付を登って最初の木のテラスに出る。ここから小さなスタンス、ホールドを頼りに凹角を登るが、傾斜が緩いので思

ったよりやさしい。小ハングを越してブッシュの中で確保、頂上のハング帯を一気に抜ければ終了である。
ルートの核心部は、猿岩で最も大きい底ハングと、四P目の三〇〇層ハング帯の乗っ越しにある。登攀所要タイム 三時間

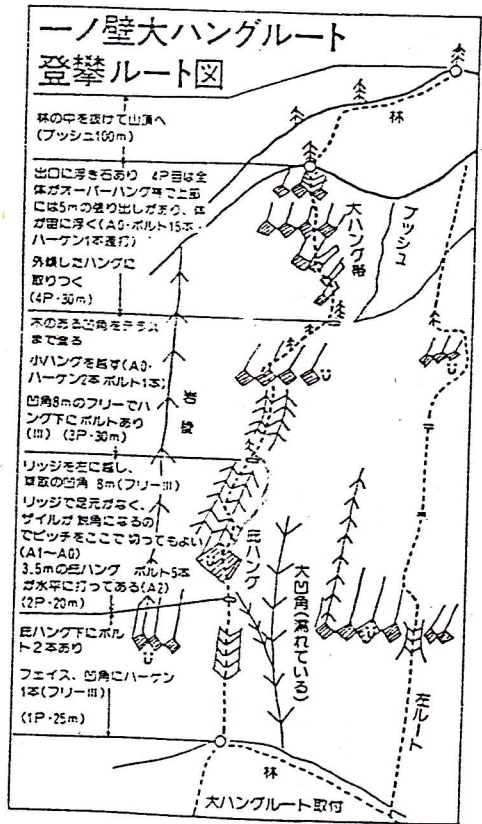
◆一ノ壁左ルート

この左ルートは一九七〇年秋に初登された。十年後の現在でもフリーのルートとして、一ノ壁の中では非常に興味深い。取付はダイレクトルート

の左側で、上部を見上げるとハング帯の中にそれと分かる凹状角と三P目の大木が見える。
一P目、フニイスを約一五層登り凹角に入る。スタンス、ピンとも充分で思い切りよく登れる。凹角を抜け傾斜の緩いフニイスを登り草付テラスへ。
二P目、フニイスから右上に見える小ハングを越し、凹角状のフニイスを登るとザイルが約半分残るが、ここでピッチを切る。
三P目、最初の小ハングの乗っ越しは少し微妙なバランスと、指の力を必要とする。リッジ右のフニイスと小ハングを越し、夜鷹の住む大テラスに出る。このテラスから上はピンも見えず、ルートファインディングがむずかしい。自分の目と足を信じて上へ上へと小ハ

このルートは当初、人工とフリーのミックスルートであったが、現在ではフリールートとなっている。登攀所要タイム 三時間。
(記・伊藤詔治)

一ノ壁大ハンゲルルート 登攀ルート



一ノ壁の三つのハング帯をほぼ直上するルートで、人工登攀テクニクが要求される。取付は第一バンドやや左寄りの岩にツタワルソンの張りついた部分の左から登るもの。そこから約一〇層右に下がった所から登ると二通りある。前者の方がすっきりして気持ちがいい。ボルト連打の細かいフニイスを約一〇層登り、小ハングはA0で強引に